

## グループ1

# 人道的側面から見た平和構築における優先順位の検討

## はじめに

冷戦後、世界各地で勃発する紛争の形態は、多様化かつ複雑化しており、すべてのケースに対応できる平和構築活動のモデル化を図ることは難しいといわれている。私たちは、このグループ討論で、“人道的視点”を用いることで、あえて平和構築活動に優先順位を付け、モデル化できないかと試みた。モデル化をするにあたり、まず平和概念を整理し、その議論を踏まえて人道的観点から平和構築活動の最適モデルを作成した。そしてモデルにカンボジアの事例を当てはめ検証した。

## 平和とは何か

辞書的な定義では、平和とは戦争がなくて世が安穏であることである(広辞苑より)。これは国家が軍事的な脅威に晒されない状態、つまり国家の安全保障が維持されている状態だといえる。

さらに個人を視点に考えると、平和とは、人々が以下の暴力からの脅威に晒されないことであると考えられる。

● 積極的暴力: 目に見える暴力や拷問

● 消極的暴力: 貧困、差別など社会構造に起因する暴力

→平和とは人々が積極的暴力からも消極的暴力からも解放された状態、つまりは戦争が無いだけでなく、基本的人権の保障がなされている状態である。

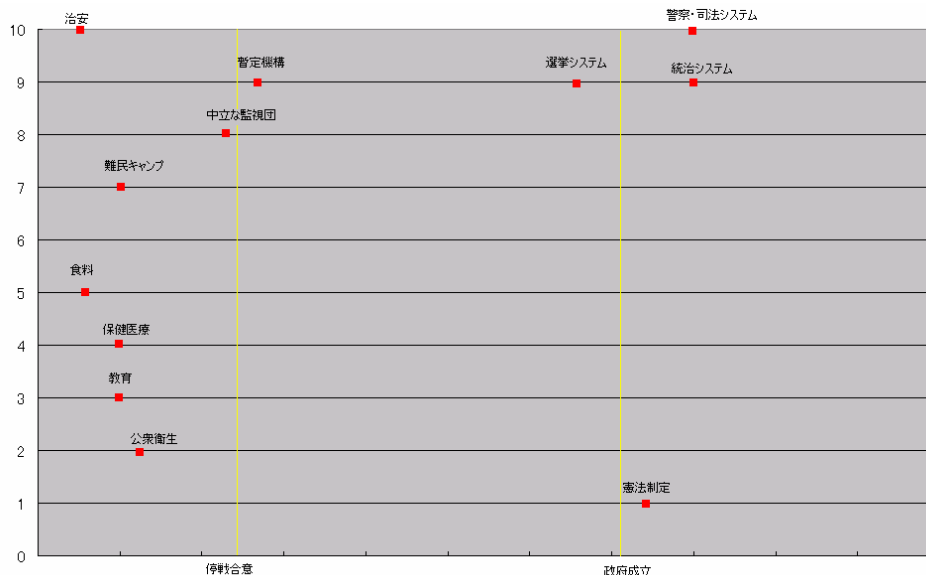
→この考え方は「人間の安全保障」の基本概念である、「欠乏からの自由」「恐怖からの自由」と合致する。

以上の議論により、私たちは平和構築活動においても個人の権利保障が第一義的であると認識し、人道的観点から平和構築活動に優先順序をつけ、モデル化できないかと考えた。

## 平和構築活動の最適モデル

私たちは、過去に起こった紛争時の平和構築活動を念頭に置きながら、人道的援助という観点から、各々の活動がいつ開始されるべきか(時間)、また、どれくらいの活動資金が投下されるべきか(投資金額)を考えた。人道的観点から見て、最適だと思われるモデルが次のようなものである。

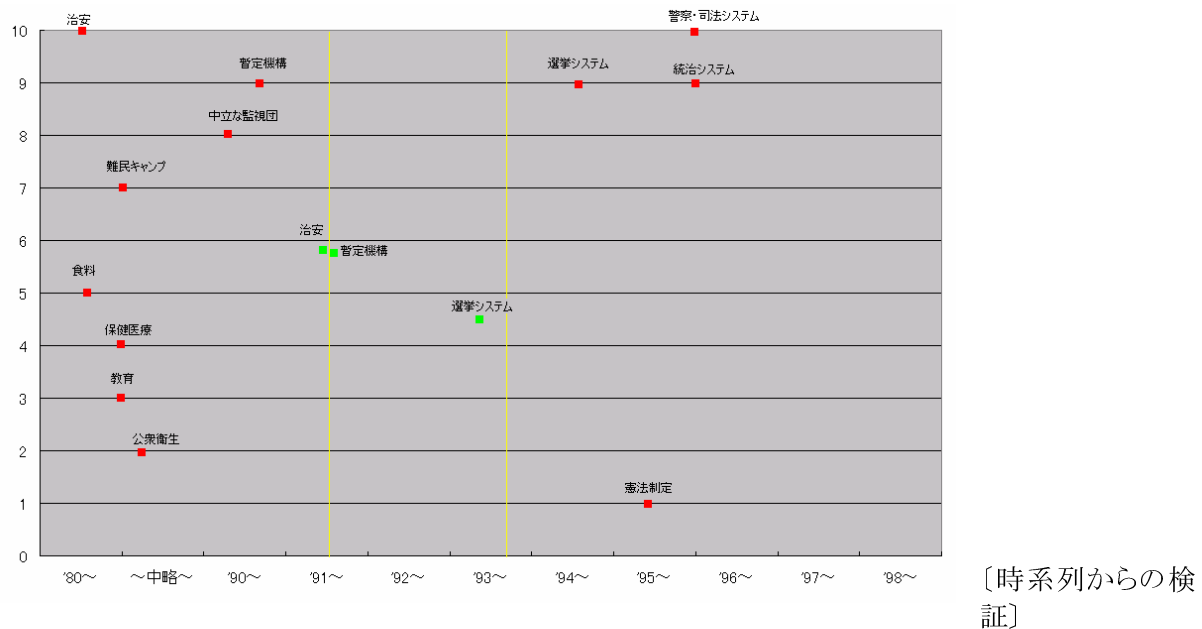
→【最適モデル】変数) 時間的プロセス、活動への投資額



カンボジア紛争

## 事例との検証

つぎに、私たちが作成した上記の最適モデルに、カンボジア紛争時における平和構築活動をあてはめ検証した。今回は利用可能な資料の関係で時系列からの検証のみに留まった。



### プラス面

- ・UNの介入後、カンボジア憲法が二年で成立 ※東チモール(4年)、ソマリア(8年)
- ・UNTACの活動開始により、国境から難民が帰還

### マイナス面

- ・UNの介入開始時期が全体的に遅い、  
→より積極的・長期的な関与のあり方を模索すべきである
- ・70年代に入ってから紛争勃発・難民発生  
⇨UNの対応は90年代に入ってからであり、もっと早くに対応が可能であったのではないか
- ・治安回復、暫定機構の設立の遅さ  
→カンボジア周辺諸国による一体的な協力の欠如、平和へのモチベーションの欠乏

## 結論

結論として、今回のモデル化と検証の反省と課題を述べたい。

- ・コスト面からの分析

今回は、資料が集めきれず、コスト面からの分析ができなかった。

- ・モデルの使い方

作成したモデルの使い方、また有用性についてグループ内で十分に討論できていない。

- ・平和構築における最適モデルの精緻化

今回の議論で作成した最適化モデルは不確定要素が多く、根拠が弱い。またカンボジア事例のみならず複数の事例を検証することによって、最適化モデルを精緻化する必要がある。